
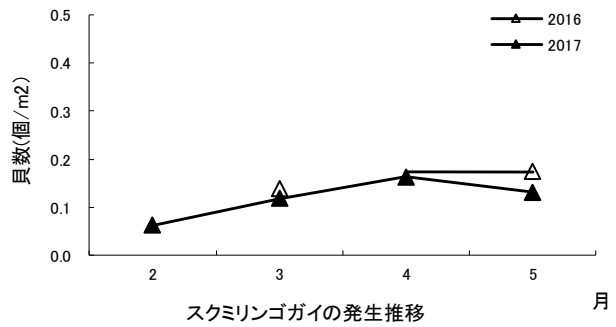
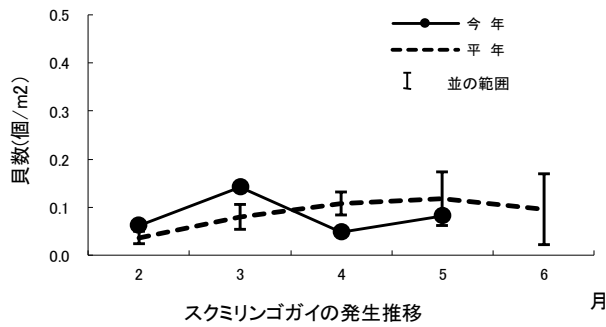


作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
5月の発生量（現況）	並		
6月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	貝数の平年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



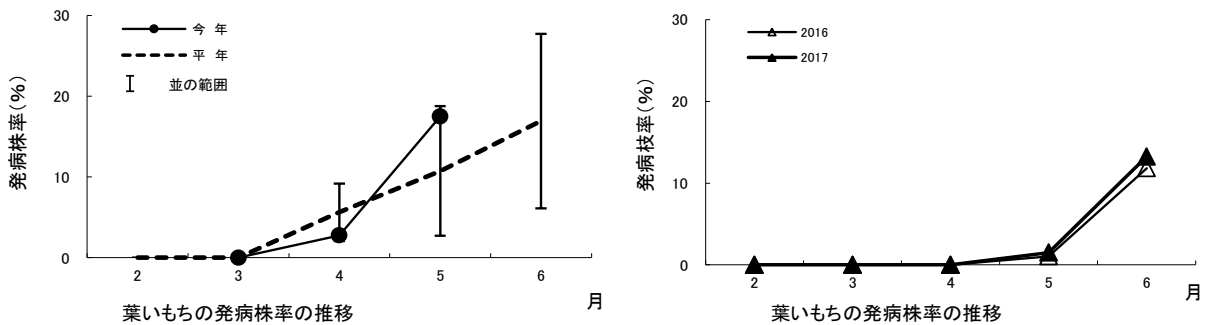
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 貝数（個/m²）：0.1（前年0.1、平年0.1、判定「並」）
- ・ 発生ほ場率（%）：50.0（前年31.2）

防除のポイント

- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・ 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② 葉いもち病		
5月の発生量（現況）		並	
6月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		発病株率の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。	


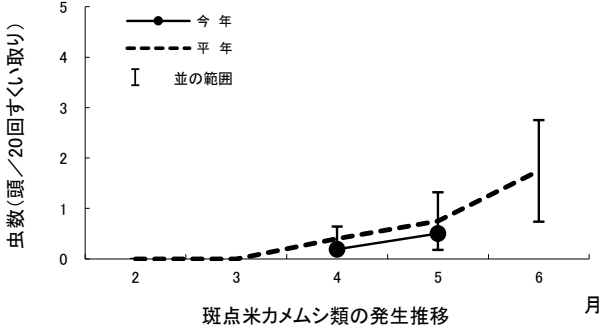
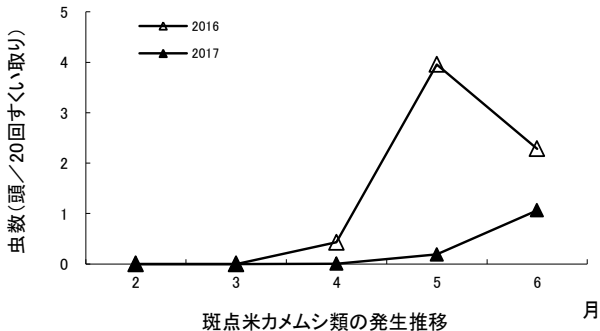
発生量の根拠（調査結果）




- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発病株率 (%)：17.5（前年1.5、平年10.8、判定「並」）
- ・ 発生ほ場率 (%)：75.0（前年12.5）
- ・ 防除員による報告：中発生（西表島）
- ・ 関係機関による報告：一部で葉いもち及び穂いもちの多発生が見られた（石垣島）。

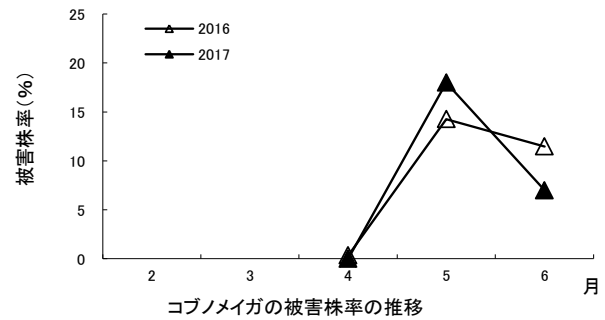
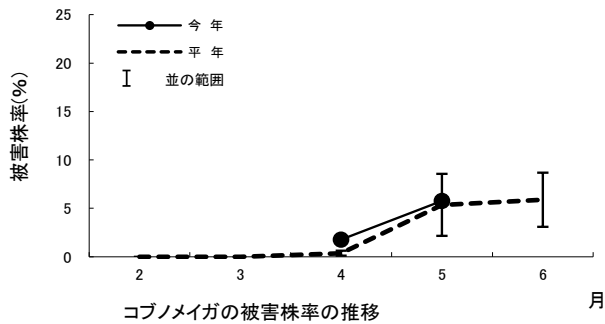
防除のポイント

- ・ 窒素肥料の過用により徒長した場合や葉色が濃い場合に発生が多いため、これらのほ場では施肥量を減らすか、ケイ酸資材の施用を行う。
- ・ 穂いもち病への移行を防ぐため、発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・ 発生の多い地域では、共同防除を行う。
- ・ 収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・ 汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ 斑点米カメムシ類		
5月の発生量（現況）	並		
6月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	捕虫網すくい取り虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。		
発生量の根拠（調査結果）			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>斑点米カメムシ類の発生推移</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>斑点米カメムシ類の発生推移</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査地域：石垣市 ・ 捕虫網20回すくい取り虫数（頭）：0.5（前年0.2、平年0.7、判定「並」） ・ 発生ほ場率（％）：37.5（前年62.5） ・ 発生種：ホソハリカメムシ、アカカメムシ、ヒメナガカメムシ、アカスジホソナガカスミカメ 			
防除のポイント			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤防除は穂前期とその7～10日後の2回実施を基本とする。 ・ 次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う。 			

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	④ コブノメイガ		
5月の発生量（現況）	並		
6月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	被害株率の平年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 被害株率（％）：5.8（前年18.0、平年5.3、判定「並」）
- ・ 発生ほ場率（％）：37.5（前年75.0）

防除のポイント

- ・ 老齢幼虫は防除効果が劣るため、粒剤では成虫発生最盛期、粉剤及び液剤ではその約 1 週間後に薬剤防除を行う。
- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う。